

富士重工業株式会社 群馬製作所

スバルの「モノづくり」は、前身である中島飛行機から受け継がれてきた航空機設計の基本思想の基に築かれています。中島飛行機の技術者たちは、優れた技術を生かして、一台の高性能な小型乗用車「スバル 1500」を完成させました。画期的な先進機構を採用していましたが、諸般の事情で発売されず「幻の名車」として世に伝えられることになった。そこで培われた車づくりの経験は後の「スバル 360」に引き継がれていきます。

昭和 33 年にスバルが最初に販売したものがスバル 360 です。かわいらしい形の小さな車でありながらも、乗用車に負けない走行性能と乗り心地の良さであったという。最大の特徴は、細いハンドルです。そして、スバルは水平対向エンジン、シンメトリカル AWD システム等、独創的な技術を世に送り出してきました。スバルならではの技術で環境と走る快適さを両立しています。

- 水平対向エンジン

左右対称に向き合ったピストンが水平方向に往復することで、互いの力を打ち消しあう力を持っている。そのため振動も少なく、静かになめらかに回ります。

- アイサイト

ステレオカメラを使って前方を監視する独自のユニークな技術です。交通安全に役に立つだけでなく、高速道路の渋滞の中でも、前の車との適正な距離を保ちながら追従走行ができる。また交通事故が起きそうなときは、車が自動でブレーキを作動させて、衝突の被害を減らします。

そして、すべてのひとを守るために、万が一の衝突事故において、最後に人を守るのは車のボディです。ぶつかった衝撃から乗員を守る「パッシブ セイフティ」と、歩行者との事故における歩行者保護性能を高めています。これらをふまえて、スバルは、「自動車による事故をゼロにすること」を目指している。

☆ スバル車ができるまで

1. プレス工程

車の材料となる自動車用鉄板が切断されプレス機械により成形されます。鉄板 1 枚で車 30 台分の成形にいきとどくそうです。

2. ボディ溶接組立工程

複数の部品を主にスポット溶接によって車のボディを作る工程です。溶接ロボットが溶接する。

3. ペイント工程

鉄板ボディをまず洗浄して、下地塗、中塗り、上塗りして焼き付けをする。ここで車の形が見えてくる。

4. トリム工程

塗装の完了したボディに各種の内外塗装部品を取り付けます。作業をしやすくするために、ドアを取り外した状態で作業します。取り付けられる部品は約 6000 種類です。

5. 完成検査

各種テスト機械にて厳密な試験と調整を行います。

6. 出荷

細かな厳しいテストを経てはじめて世界中のお客様に向けて出荷されるのです。